

STUDY ABROAD REPORT 2020-2021

P

巻頭言 PREFACE

千葉大学では、学生交流協定を結んでいる海外の大学（以下、「協定校」）と、授業料不徴収の原則にもとづいて学生の派遣及び受入れを行っています。毎年、各協定校との間で1名ないし2名を交換留学のために半年から1年のあいだで留学が出来るようにした制度ですが、千葉大学海外派遣留学プログラムはこのうち千葉大学に在学する学部生、大学院生を海外の協定校に送ることを目的としています。

この Report では、2020 年秋、2021 年春に留学を開始した学生たちを書いてもらった留学の報告を載せています。周知のようにこの時期は新型コロナウイルス感染症の流行1年目から2年目にあたり、渡航が非常に制限された時期でした。派遣留学を希望した多くの学生はせっかく派遣候補者となっても渡航ができず、とても残念な思いをされたと思います。その中で3名の学生はオンライン留学を選択して日本にいながら協定校の授業を受けました。1名の学生だけは唯一、新型コロナウイルスが封じ込められていた時期の韓国に渡航し、留学することが出来ました。特殊な時期の特殊な経験なのか、それとも今後ともこうした経験の一部は継続していくのか、それはわかりませんが、貴重な経験の報告であることは間違いないと思います。

この Report では、オンラインまたは実際の留学先での大学の授業の様子や生活、留学したことによって学んだことなどが書かれています。これを読む学生の皆さんにとっては、希望する協定校の具体的な姿がわかるとともに、何を準備しなければいけないかについても多くの示唆を得ることができると思います。オンライン留学にはオンライン留学なりの利点と不利な点があることがよくわかると思いますし、実際に留学した場合にも授業自体はオンラインになることも少なくないこともわかると思います。このあたりの事情は時期によって異なりますので、その点は注意するようにお願いします。

これから派遣留学を目指そうとする皆さんは、まずはインターネットで協定校の情報を手に入れるなど、そうしたところから留学準備を始めるのがよいでしょう。それと同時に、実は行かないとわからないことがたくさんあることも忘れないようにしてください。この Report が、そうした情報のギャップを埋めることに役立つものになることを祈っています。

この Report に協力していただいた学生の皆さんに感謝するとともに、作成に携わった融合理工学府創成工学専攻デザインコースおよび留学生課の皆様にも感謝の意を表します。

2022 年 3 月 23 日
国際教育センター留学生派遣推進部長
村岡英裕

C

目次 CONTENTS

09	UNIVERSITY OF ALBERTA Edmonton, Canada	教育学部 中学校教員養成課程英語科教育分野 4年 清口龍平
10	UNIVERSITY OF JYVASKYLA Jyvaskyla, Finland	教育学部 中学校教員養成課程英語科教育分野 4年 渡井柊雅
11	UNIVERSITY OF THE BASQUE COUNTRY Basque, Spain	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 3年 熊野光翼
12	SUNGKYUNKWAN UNIVERSITY Seoul, South Korea	国際教養学部 国際教養学科現代日本学メジャー 3年 島袋光



オンライン留学をしている学生を対象としたオリエンテーションを開催してくれてくれることはありました。そのオリエンテーションの中で、悩んでいる学生を対象とした窓口のようなものを設置していると言っていました。また、手紙なども滞りなく運んでくださっていました。授業でも、教授の方々は優しくしてくださっていました。現地の学生が参加する授業に私も参加していたのですが、毎回必ず話を振ってくださったり、質問にも真摯に答えていただきました。オンラインにも真摯に答えていただきました。チャーターの学生がいてくれたのは大きなサポートでした。他の留学生と交流する時間を設けてくれたり、現地の生活の様子を共有してくれました。チャーターと話すことで少しは心が休まることもありました。

J

オンライン留学の利点は、今までと変わらない生活を送りつつ海外の授業を受けられることです。留学先がフィンランドで時差をあまり気にしなくて良かったというのがありますが、私は基本的に普段の生活リズムを崩さずに留学を続けることができました。その反面、当たり前ですが現地の生活を体験できないことが欠点です。留学は学びはもちろんですが、留学先に行って文化に触れて、生活の中で新しいことを学ぶことも大きな目的であると考えているからです。



イメージ/ ユヴァスキュラ大学より提供

授業は、全体的に学生が発言する機会が多かったです。教授の発問に対して学生が自分の考えを長く語り、それに対してさらに意見を加えるということが多かったです。最初はそれに慣れるのが大変でしたが、段々と自分も授業内で発言ができるようになりました。私が受けた授業は3つです。

① Education in Finland

フィンランドの教育の概要を学ぶ授業でした。フィンランドと日本の教育の共通点と相違点を発見できて面白かったです。終盤の授業では、留学生同士でグループを作ってそれぞれの国の教育をアピールしました。最終課題はテストでしたがそこまで苦勞しませんでした。

オンライン留学は決して楽なものではありません。授業は一人で受け、他の学生との交流もないため、自問自答することが増えます。

自分が留学している意味を見失いそうになることもあります。ただ、それでもオンラインだからこそ学べること・経験できることもあるはず。それができるかは自分次第です。積極的に行動できるか、周りの人を頼りつつ上手く乗り越えられるかが鍵となると思います。それでも、可能なら現地へ留学したほうが良いと思います。オンラインで得られる学びには限界があります。結果的にオンラインになってしまっても、せっかくの学びの機会をどうやって最大化するかを考えて、充実した留学にしてください。



イメージ/ ユヴァスキュラ大学より提供

一人で学ぶ続けることが一番大変でした。対面の授業であれば、友だちと一緒に受講するのでわからないことなどを相談できるはずでしたが、オンラインなので全て自分で解決するか、教授にメールを送らなくてはなりません。相談相手がないので自分の理解は正しいのかを確認することすらできませんでした。また、一人なので自分の発言が相手に伝わっているのかを肌で感じる事ができず、コミュニケーションの不安は続きました。大変な状況は続きましたが、同時期に留学していた大学の友だちと励ましあったり、追加の文献を読むことで何とか授業についていけるように頑張りました。さらに、チャーターとして現地の学生がいてくれて、定期的に連絡をしてくれました。現地での生活や日本での生活を共有し合うことで授業外でのコミュニケーションも取ることはできました。

とえ、現地の学生に写真などを送ってもらっても、実際に体験してみないと得られないことが多いと思います。他には、オンラインなのでコミュニケーションが成り立っているのが不安でした。自分の言っていることに対して頷いてくれるのは見えるのですが、本当に理解しているのかはわかりませんでした。



イメージ/ ユヴァスキュラ大学より提供

② Formal Language Development

英語の言語的特徴を学習して、若い学習者に対してどのように言語教育をしていくかを考える授業です。学生同士が積極的に議論する時間が長くて興味深かったです。教授に指定された文献を読んで自分の考えをまとめる課題が毎回課されました。大変でしたが、これを通してクリティカルシンキングが身についたと思います。

③ Key Considerations in Intercultural and International Education

教育を国際的な視点から捉えて意見を出し合う授業です。受講者のほとんどが大学院生で私には少しレベルが高かったです。自分とは異なる境遇の子どもたちの教育について学びました。国際的な視点で教育を捉えたことはなかったので新鮮でした。最後の発表では、グローバル人材を育成するための教育のあり方について発表しました。

B

オンライン留学を行うにあたり一番大変だったことは、日本での生活との両立です。スペインは日本との時差が8時間(サマータイム時は7時間)あり、基本的に授業時間が日本時間の夜でした。私は千葉大学の授業も同時に履修しており、その他アルバイト等も含めると、どうしてもうまく休憩時間を取れなかったり、昼夜逆転で生活リズムが大きく乱れてしまったりします。この結果、精神的な負担も必然的に上昇してしまいます。これは学習面での効率低下にも繋がってしまうため、注意が必要です。特にオンラインであればなおのこと、留学前の学生は、主に学習面の心配をしている学生が多いように思いますが、このような精神面のことも、それ相應の覚悟を持っておくべきかと思えます。辛いときは無理をせず、タスクを最小限に削っていく(なんでも欲張りすぎない)ことも大切です。

利点としては、日本での対面開催のイベント等に参加できることです。本来であれば海外渡航しており参加できなかったであろう、美術館の企画展などに参加できたことは、不幸中の幸い。また、費用面も利点かもしれません。渡航費や保険費等が一切かからず、千葉大学の学費のみで受講できるので、座学系の授業であれば、特に費用対効果の面で良いかとも思われます。欠点としては、座学系以外の授業の場合、授業から得られる学びがかなり限定されてし



イメージ/ バスク州立大学より提供

前述の通り、建築学部の授業は全て対面での開催だったため、多くを語ることはできません。ただ、履修登録はしており、オンライン上で一部の資料は確認できたので、その観点からお話すると、英語による授業とはいえども、参考資料などどうしても現地語になりがちだったので、やはり最低限の現地語(私の場合であればスペイン語)の学習が必要に感じました。ちなみに、バスク語も現地語の一つではありますが、そこに関してはさほど心配しなくてよさそうです。というのも、バスクで書かれた資料は基本的にスペイン語でもあるからです。語学(スペイン語・バスク語)の授業はオンラインでの開講がされていたので、最後まで授業に参加していました。

一番大変だったことと重複してしまいますが、時差が大きい国であればなおのこと、オンラインであっても(むしろオンラインだからこそ)、それ相應の覚悟をもって留学をするか選択するべきだと思います。実際、私が再び1年間オンライン留学をするかどうかと聞かれたら、申し訳ないのですが、「しない」と答えます。本当にこのオンライン留学が自分にとって最善の策なのか、それともその留学に充てる時間を別のものに費やした方が良いのか、きちんと考えてから決断しましょう。そこに納得感を持ってオンライン留学に挑めれば、きっとオンラインであってもそれ相應の満足感を得られるはずです。そのためにも一人で悩まず、留学生課の皆さんや友達などにぜひ相談してみてください。



イメージ/ バスク州立大学より提供

まう点です。私がまさにその例で、建築学部の授業は基本的に実習に重きを置かれているため、オンラインで学ぶことは非常に難しい状況でした。建築物は自分の目で見ると意味があるものだと考えています(学術的な話でなくても、多くの人々が建築物の写真を見るだけでは満足できず、現物を見たいと感じることと非常に近い)。オンライン留学は、学問分野によって意義が大きく異なってくるでしょう。



イメージ/ バスク州立大学より提供

そこで驚いたのが、日本人はおるか、アジア人すらない、参加者が皆欧州人だったことです。だからと言って、特に差別を受けたわけではありません。むしろ、先生は、日本に関する話をよく私に振って下さって、こちらとしてはありがたかったです。語学の授業に参加して感じた最大の悩みは、他の学生との習得速度の差です。前述の通り、私以外の学生は皆現地に住んでおり、日常的にスペイン語もしくはバスク語を使用する機会がありました。それに反して、私は日本におり、ましてスペイン語を話す留学生すらいなかったため、授業外での使用機会はほとんどありませんでした。そのため、授業についていくために他のどの学生よりも一生懸命勉強する必要があり、苦しかったのを今でも覚えています。全体的に授業は少人数(5-20人)による対話ベースで、和やかだったため、雰囲気は悪くなかったと思います。語学力の向上や友達を作るきっかけにもなり、なんだかんだで最後まで取ってよかったと思います。

留学先大学のサポートは、正直なところ、十分だったとは言いがたいです。なぜなら建築学部の授業はコロナ禍でもすべてが対面による実施で、ほとんど学習することができなかつたためです。しかしながら、これに関しては仕方ないとも考えています。というのも、建築学部の留学生は、建設計画の授業以外に一人一人が担当の授業効率を落としてまで対応することは、客観的に考えて難しいことではあります。また、建築学部の授業以外ではサポートは迅速に、そして丁寧にご対応いただけていたため、良かったです。敢て言えば、オンラインでもJ-PACチャーターのような方をご用意いただけたら嬉しかったです。

私が留学した大学は、創立から600年以上経っており、東アジア最古の大学と言われている。キャンパス内には貴重な遺跡が残っており、朝鮮時代を背景としたドラマや映画などの作品によく登場しているそうです。(実際に留学中にも、ドラマの撮影が行われていました)また、韓国トップの財閥企業サムスンが経営に参画していることで有名です。留学生へのサポートとして、隔離期間中の寮の用意や生活に必要な情報の提供などを行ってくださり、スムーズな留学生活を送れるようサポートしていただきました。また、留学生をサポートするサークルがあり、オンラインで交流を行ってくださり、カカオトークで学生生活や大学周辺の情報をシェアしてくれてとても助かりました。

S

準備段階において大変だったことは、渡航における安全性を示す書類を集めることです。コロナ禍ということもあり、通常の留学よりも必要な書類が多く、渡航した後のシミュレーションを何パターンも考えなければならなかったため、とても時間がかかりました。留学先大学のコーディネーターの方と連絡を取り合い、隔離施設やコロナにかかった時の対応、空港での検査などについての情報を集め、渡航後の動きを把握することに努めました。準備する上で気をつけた方が良かったことは、コロナにより通常よりもVISAなどの証明書の発行が遅くなる可能性もあるということです。そのため、通常時よりも前もって準備することが大切だと感じました。また、SNSやYouTubeなどで同じ時期・同じ地域に渡航している方の情報を得ることでリアルタイムの状況を把握することができるのでそれらを活用するのもおすすめです。

留学先大学の良い点は、学部に関係なく授業を取ることができることです。自分が興味のある授業であれば許可なくどれをとってもよかったです。実際に私も学部の授業2つ、学部外の授業を3つとっていました。そして改善してほしい点は、履修登録が先着順だということです。普段の履修登録と異なり、みんな命懸けで争奪戦をしているので、かなり苦戦しました。これにより、取りたかった授業が1つ取れなかったのが残念でした。

現地に到着した後は、タクシーを使って大学が用意してくれた隔離用の寮に移動し、2週間過ごしました。隔離中は全く外に出ることができず、毎日3回食事が運ばれてくる際だけドアを開けても良いという生活でした。また千葉大での第5タームだったこともあり、日中は授業を受けたりテストを受けたり、語学の勉強をしたりしながら過ごしていました。また、ずっと部屋から出ず、体も鈍っていたため、毎日夕食前に筋トレを行ってリフレッシュしていました。日本から持参してよかったものは、持ち運び用の電気ケトルです。部屋にあったペットボトルの飲料水をそれで沸かし、インスタントコーヒーや味噌汁を飲んでいました。冬だったこともあり、温かい飲み物を飲むことができるのはとてもありがたかったです。



授業のスタイルは、2つの授業がZoomを使った同時双方向型、3つはオンデマンド型、そして韓国語の授業がオフラインの3形態でした。Zoomを使った授業では、毎回ブレイクアウトルームを使って少人数でディスカッションをし、グループで意見をまとめ、アイデアを Learning X (千葉大での Moodle) に提出するという形で授業を進めていきました。また、授業の前に事前にアップロードされた動画を視聴し、それをふまえた上で Zoom の授業に参加するという Flipped Learning 形式をとっているため、インプットしたことをすぐにアウトプットできて、勉強したことが身につけていることを実感することができたのがよかったです。授業内容としては、デジタルと Public Relations の関係性について学び、実際に企業がどのようなコミュニケーションや広告を行っているのかといったことを実例を交えながら学ぶというものでした。グループで実際にある企業の CSR 活動を考案するなど、実践的な内容が多く、とても勉強になりました。そして、何よりも学生の勉強意欲が高く、積極的に質問したり、意見を交換していて、とても刺激をもらうことができました。一方、オンデマンドの授業は、メディアリテラシーやブランドマーケティング、韓国映画についてなど、自分の興味のある分野の授業を履修していました。しかし、ディスカッションもなく、ただ動画を視聴するだけだったので、少し物足りなく感じました。そして、

韓国語の授業は、オフラインとオンラインを選べるのですが、私はオフラインを選び、週に1回2コマ学校で授業を受けました。授業中はすべて韓国語で少し難易度が高かったのですが、先生がとても分かりやすく教えてくれたため、上達したように思います。

基本的に授業は午後からのことが多かったため、午前中は寮や大学の図書館で授業の復習や予習、オンデマンド授業の視聴をしていました。そして、午後になると、75分の授業を2コマ受けた後は、ルームメイトと夜ご飯を食べに広蔵市場に行ったり、散歩をしたりしました。時間がある時はバスに乗って大型スーパーに行ったり買い物したり、益善洞という近郊のカフェスポットに行ったりもしていました。また、授業がない日は、韓国人の友人や留学生の友人と、景福宮や国立公園、美術館などの観光地を巡ったり、少し遠出をしたりして、韓国ならではの文化や土地を感じられるような経験をたくさんすることができました。そして、期末の時期になると、千葉大でのターム末もかぶっていたため、かなり課題をこなすのが大変でした。図書館にこもって課題をしたり、ルームメイトとカフェに行ったり勉強をしたりして過ごしていました。その結果、成績も良い判定をもらうことができたので嬉しかったです。

今回、新型コロナウイルスによって渡航できなかった人が多い中で、運よく現地での留学を実現することができたことは本当に恵まれていたなと実感しましたし、最後まで諦めずに準備に取り組む、最終的に渡航許可をいただけたことは、自分の自信にもつながりました。この留学を通して、勉強面ではもちろん、人間的にも成長できたと思います。これから残りの大学生活でも、この経験を活かし、様々なことに積極的に取り組んでいきたいです。



派遣留学は、自分が本当に学びたいことは何か、留学先でどのようなことをしたいのかなど、自分の中の考えを見つめなおすことができるとても良い機会だと思います。事前準備をしっかり行い、後悔のない留学生活を送れるよう頑張ってください！

P

学生交流協定校一覧 (2022.3) 34 カ国 221 協定

北米地域 12 協定	アメリカ: 6	カナダ: 6	チリ: 1	ベルギー: 1	アジア地域 138 協定	中国: 46	韓国: 23	台湾: 20	インドネシア: 14
中南米地域 12 協定	メキシコ: 9	パナマ: 2	スイス: 1	ポルトガル: 1	タイ: 18	タイ: 18	シンガポール: 1	マレーシア: 5	カンボジア: 1
欧州地域 51 協定	イギリス: 4	フランス: 8	スイス: 1		ベトナム: 6	ベトナム: 6	フィリピン: 2	インド: 2	
	ドイツ: 9	イタリア: 4	ギリシャ: 1		トルコ: 3	トルコ: 3			
	フィンランド: 6	スウェーデン: 1	スペイン: 2		ケニア: 1	ケニア: 1	ウガンダ: 1		
	ハンガリー: 1	チェコ: 1	ロシア: 11		オーストラリア: 3	オーストラリア: 3			

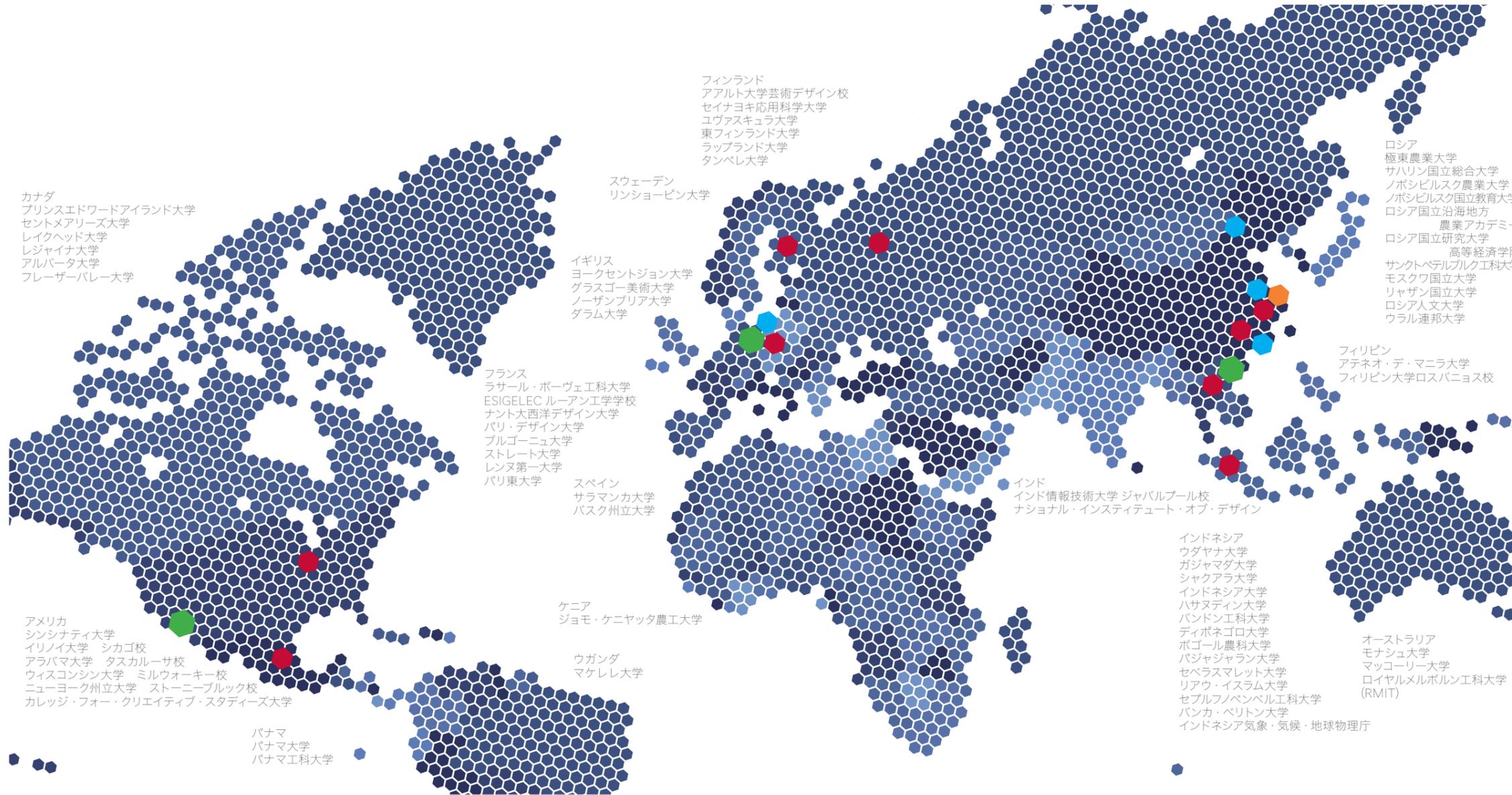
協定校 PARTNER UNIVERSITY

海外キャンパス
バンコク キャンパス
ベルリンキャンパス
サンディエゴキャンパス

オフィス
北京オフィス
上海オフィス
ホーチミンオフィス
ベルリンオフィス

共同研究センター
上海交通大学

IEC オフィス
セイナヨキ応用科学大学
ロシア人文大学
(日本センター)
シャリテベルリン医科大学
上海交通大学
浙江大学
マヒドン大学
インドネシア大学
シンシナティ大学
モンテレイ大学



アメリカ
シンシナティ大学
イリノイ大学 シカゴ校
アラバマ大学 タスカルーサ校
ウィスコンシン大学 ミルウォーキー校
ニューヨーク州立大学 ストローブルック校
カレッジ・フォー・クリエイティブ・スタディーズ大学

チリ
オヒギンス大学

メキシコ
モンテレイ大学
グアダハラ大学
ヴェラクルス大学
パンアメリカン大学
モンテレイ工科大学
メリダマリスタ大学
イペロアメリカナ大学
メトロポリタン自治大学
アグアスカリエンテス自治大学

スイス
ベルン応用科学大学

イタリヤ
ミラノ工科大学 (POLIMI)
工業デザイン大学ローマ校 (ISIA)
IULM 大学
ウディネ大学

ドイツ
ライプツィヒ大学
ゲッティンゲン大学
ハイデルベルク大学
デュッセルドルフ大学
ドレスデン応用科学大学
ケルン応用科学大学 (KISS)
ローゼンハイム応用科学大学
ベルリン自由大学 歴史・文化学部
アウクスブルグ専門大学

フランス
ラサール・ボーヴェ工科大学
ESIGELEC ルーアン工学学校
ナント大西洋デザイン大学
パリ・デザイン大学
ブルゴーニュ大学
ストレート大学
レンヌ第一大学
パリ東大学

フィンランド
アアルト大学芸術デザイン校
セイナヨキ応用科学大学
ユヴァスキュラ大学
東フィンランド大学
ラップランド大学
タンペレ大学

スウェーデン
リンショーピン大学

イギリス
ヨークセントジョン大学
グラスゴー美術大学
ノーザンブリア大学
ダラム大学

スペイン
サラマンカ大学
バスク州立大学

ケニア
ジョモ・ケニヤッタ農工大学

ウガンダ
マケレレ大学

インド
インド情報技術大学 ジャバルプール校
ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン

インドネシア
ウダヤナ大学
ガジャマダ大学
ジャクアラ大学
インドネシア大学
ハサヌディン大学
バンドン工科大学
ディボネゴロ大学
ボゴール農科大学
パジャジャラン大学
セバラスマレット大学
リアウ・イスラム大学
セプルフノバンベル工科大学
パンカ・ペリトン大学
インドネシア気象・気候・地球物理庁

インドネシア
ウダヤナ大学
ガジャマダ大学
ジャクアラ大学
インドネシア大学
ハサヌディン大学
バンドン工科大学
ディボネゴロ大学
ボゴール農科大学
パジャジャラン大学
セバラスマレット大学
リアウ・イスラム大学
セプルフノバンベル工科大学
パンカ・ペリトン大学
インドネシア気象・気候・地球物理庁

フィリピン
アテネオ・デ・マニラ大学
フィリピン大学ロスバニョス校

ロシア
極東農業大学
サハリン国立総合大学
ノボシビルスク農業大学
ノボシビルスク国立教育大学
ロシア国立沿海地方
農業アカデミー
ロシア国立研究大学
高等経済学院
サンクトペテルブルク工科大学
モスクワ国立大学
リャザン国立大学
ロシア人文大学
ウラル連邦大学

オーストラリア
モナシュ大学
マッコーリー大学
ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT)

台湾
実践大学
中原大学
東海大学
大同大学
台北医学大学
国立成功大学
国立中山大学
高雄師範大学
国立政治大学
国立高雄大学
南台科技大学
国立陽明交通大学
文藻外語大学
国立中央大学
国立清華大学
国立台湾師範大学
国立台北教育大学
国立台湾芸術大学
亞洲大学
淡江大学

シンガポール
シンガポール工科大学 (SUTD)

カンボジア
王立ブノンペン大学

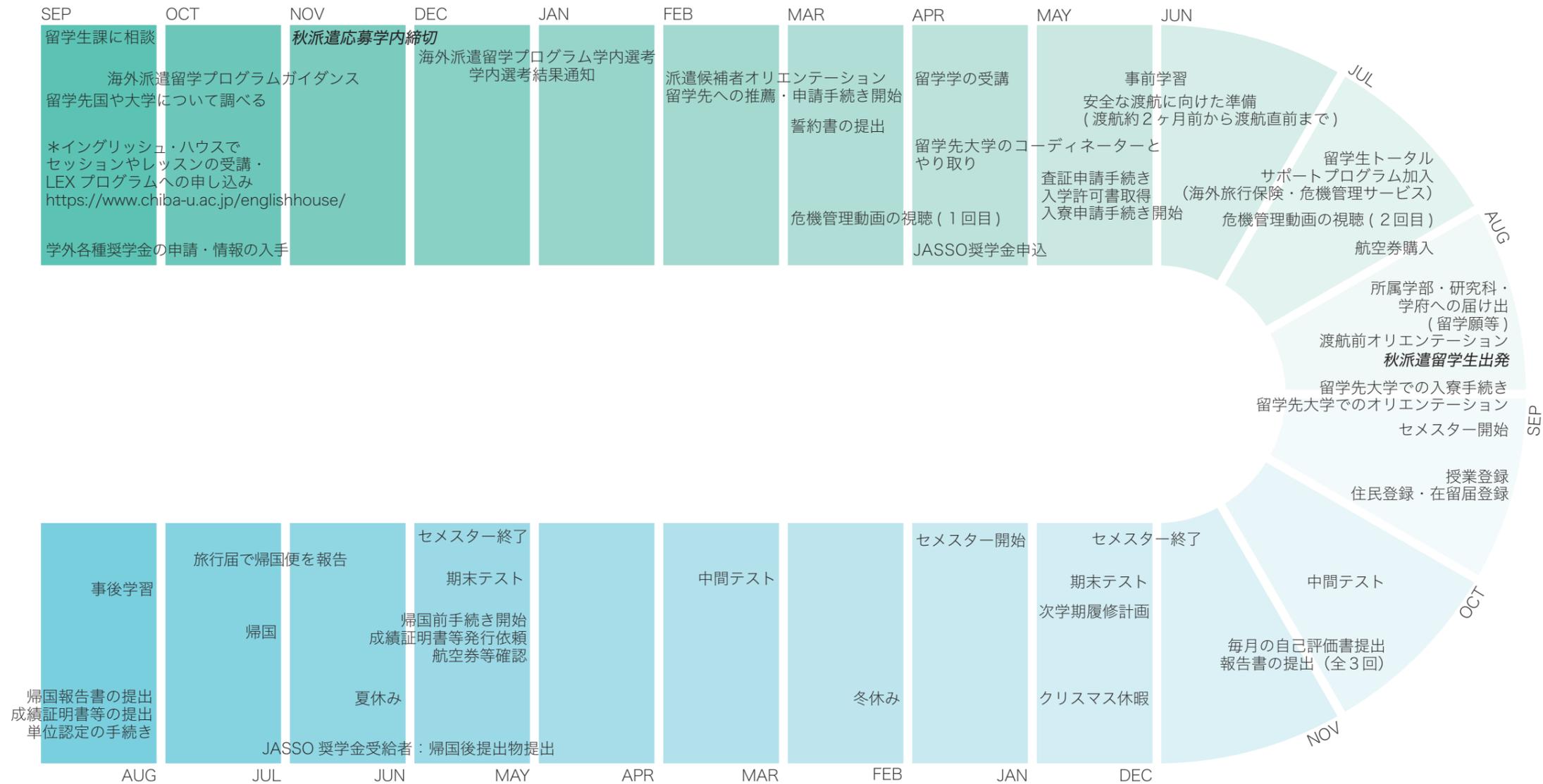
マレーシア
マラヤ大学
サラワク大学
マルチメディア大学
テナガショナル大学
プトラ・マレーシア大学

S

留学スケジュール（留学準備～留学後の学修）

留学の準備は1年以上前から始める必要があります。ここでは、9月に授業を開始し、1学年度留学する場合のスケジュールを提示しますので参考にしてください（留学先によって授業開始時期は異なります）。また、各種奨学金を申請するためには前もっての準備が必要ですので、十分に余裕を持って情報収集をしてください。

スケジュール SCHEDULE



海外派遣留学プログラム面接官より：面接選考では、複数名の面接委員が留学志望者との質疑応答を通して「この学生は有意義な留学生活を送るための準備や覚悟ができていだろうか」という観点で審査します。派遣留学は語学留学ではありません。千葉大学での勉学を土台にして、さらに専門的な学修・研究を行ったり、千葉大学では開講されていない科目を留学先の大学で学んだりするプログラムです。そのため、まずは志望大学を中心に候補になるほかの大学も含めてシラバスを熟読しましょう。留学生に開講されている授業科目から自分が受講したい科目を決め、きちんと説明できるようにしておいてください。面接委員は取返して答えにくい質問をすることもありますが、その際は冷静に自分の意見を主張してください。

留学生課留学支援室留学推進係
場所：総合学生支援センター2階
開室時間：平日9：00～17：00/相談時間：10：00～16：00
ホームページ：<https://www.ryugaku.chiba-u.jp>
ホームページにて派遣留学等に関する様々な情報を提供しています。派遣留学生からの生の声は「派遣留学生からのレポート」より報告書や帰国報告書が閲覧できます。学外奨学金、学外での留学イベント、協定校主催プログラム（短期）等の案内も掲載しています。また、オンラインもしくは対面での海外留学相談の予約も受付けています。

STUDY ABROAD REPORT 2020-2021

CHIBA UNIVERSITY

1-33, Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba-shi, Chiba, 263-8522 JAPAN
www.chiba-u.ac.jp/e

© 2022 Chiba University. All Rights Reserved.